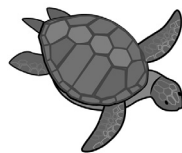


カメは恐竜を見ていた！

別司 芳子



1 一億二千万年前の発掘現場

「恐竜王国」といわれている福井県。全国で発掘される恐竜化石の約八十%が、福井県勝山市の手取層群北谷層から発掘されている。私の実家から自動車で三十分の距離だ。

勝山市教育委員会では、福井県立恐竜博物館や地元の恐竜研究会と連携し、市内の小学五年生から恐竜好きな子どもたちを募って年一〇回、「かつやまこども恐竜LABO」と称する学習会を開催している。(コロナ禍中は休止)

私は、二〇一八・二〇一九年の二年間、子どもたちと一緒に恐竜について勉強する機会に恵まれた。

その日の学習会は、日本で発見された肉食恐竜として、初めて全身骨格が復元された「フクイラプトル」や、竜脚類である草食恐竜の「フクイティタン」など、五種類の恐竜化石が見つかった発掘現場の見学だった。

子どもたちが立っている足元にも、約一億二千万年前に

生きていた恐竜の足跡化石が残っている。

「すごい！」と、歓声をあげながら足跡を追う子どもたち。もうワクワクが止まらない。さっそく、化石探しが始まった。発掘現場には土砂が塚のように積まれている。お目当ては何といっても恐竜の化石だ。ハンマーやタガネを使わずに、軍手をはめて、ごろごろと転がっている岩石の表面を観察する。二枚貝や巻貝、植物の化石など次々に発見。

そんな中で、一人の男の子がうれしそうに、小さな石を持ってきた。石の中にカケラの一部がわずかに黒く顔をのぞかせているだけだ。

「これ、恐竜じゃないですか!？」

もしかしたらと大きく期待が膨らむ。子どもたち数人が頭をくっつけて石をのぞき込む。

「これは、カメの化石だね」

判定してくれたのは、恐竜博物館の蘭田研究員だ。はあーっとため息がこぼれる男の子とは反対に、蘭田研究員は